

項目	内容
1. 国内	(1) 生産・処理動向調査（（一社）日本食鳥協会2月下旬実施）によると、1月の推計実績は、処理羽数59,610千羽（前年比105.0%）・処理重量179.2千トン（同106.2%）と羽数・重量とも前年を大きく上回り、前月時点の計画値（処理羽数（同104.6%）・処理重量（同104.7%））と比較しても、気候が例年より高めに推移し増体が順調であったこと等から上回った。特に北部九州地区（同107.7%）・南九州地区（同107.2%）の処理重量の伸びが大きかった。また、1月の生鳥処分は疾病等での廃棄合計4.40%（前年差+0.33%）と微増した。
生	(2) 2月は、閏年で1日多いこと、および温暖な気候が続いたこと等で処理羽数（同107.0%）・同処理重量（107.3%）とも前年を大きく上回る見込み。3月計画が処理羽数（同102.1%）・処理重量（同102.8%）、4月計画も処理羽数（同102.8%）・処理重量（同101.8%）と増加傾向が継続する見通し。今年のゴールデンウィークは4/29（水）の祭日を挟み、5/2（土）から5/6（水）の連休となりその間で処理場も2連休ないし3連休を実施するところが多く、5月分の出荷を前倒しでの対応などとも重量ベースで影響がでる可能性がある。新型コロナウィルスの感染拡大の影響で、インバウンドの激減と大規模イベント等の中止・自粛、中小高校の休校など、経済活動の冷え込みによる消費面での停滞が危惧される。食鳥業界にとっても業務用卸、給食需要の減少は避けられず、逆に内食需要が増高まるの期待もあるが、今のところ家庭消費も不透明な状況となっている。市況は当面弱含みの予想であり、早い終息が望まれる。
産	(1) 財務省が2月27日に公表した貿易統計によると、1月の鶏肉（原料肉）輸入量は41.6千トン（前年比99.2%）で、日本食肉輸出入協会の予測（43.8千トン）を約2.2千トン下回った。国別ではブラジルが予測を約1.0千トン下回る30.5千トン（同91.4%）、タイも約0.7千トン下回る10.3千トン（同136.2%）となった。同協会（2月19日取り纏め）によると2月46.3千トン（同111.6%）・3月44.6千トン（同112.8%）と予測されているが、前年の輸入が少なかったことによる。また、同協会によると2月現在、畜産物全般にわたる消費の伸び悩み傾向がみられ、鶏肉消費も同様の傾向にある。こうした中、国産鶏肉が引き続き増産傾向にあることから、国内の相場は回復しておらず、輸入品についても中国国内での新型コロナウイルスの影響に加えて、高病原性鳥インフルエンザが新たに発生したことから、ブラジル産、タイ産ともに对中国向け輸出が見通せない状況にある。今後2〜3か月の動向が注目される。」とコメントしている。
	(2) 鶏肉調整品の1月輸入量は39.3千トン（前年比92.7%）と、前月よりは7.6千トン減少した。昨年6月以来の40千トン割れとなった。国別では中国が前年比89.0%の15.1千トン、タイ産も前年比94.6%の23.7千トン。中国国内のAFSや新型コロナウイルス発生の影響等による混乱のほか、製造数量の減少ならびにタイから中国向け輸出が増加したのも要因の一つと考えられる。
1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、12月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費（購入）数量は4,247g（前年比95.3%）、金額は7,286円（同98.2%）となった。最需要期だったものの前年より気温が高く鍋物需要が低調だったこと等による。牛肉は和牛が好調で数量（同98.7%）は下回ったものの金額（同100.0%）は前年並み。豚肉は国産の相場が上昇し、輸入にシフトされ数量（同96.9%）金額（同97.3%）ともに下回った。鶏肉についてはクリスマスが平日となった影響等で数量（92.1%）が大幅に減少し、尚且つ量販店等での特売頻度の増加等により金額（同96.4%）も下回った。
需	(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、1月の食品売上高は全店ベースで前年比100.4%と前年並み、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比100.0%、既存店ベースでは同98.4%と下回った。畜産部門の売上高は1,063億円と全店ベース（同100.8%）では前年並み、既存店ベース（同99.2%）では下回った。「前年より気温が高い地域が多く、鍋物用や煮込み用の豚肉・鶏肉を中心に動きが悪かった。牛肉は焼肉用など好調だが平日は輸入牛、週末は和牛などブランド牛の動きが良かった。国産豚は不振となったが、輸入豚の価格訴求により販売数量を伸ばした店舗もみられた。鶏肉も気候条件により伸び悩んだが、焼き物用の銘柄鶏を訴求して成果を上げた。店舗もみられた。」と報告されている。また、惣菜部門（同102.3%・同100.8%）は天候にめぐまれたため、揚げ物や米飯類が好調に推移したこと等もあり、唯一プラスとなった。今後について、消費税増税の影響もあり、消費マインドの冷え込みは家庭化する可能性が高いとしているが、新型コロナウイルス対策で家庭で過ごす時間が増加することも予想され、長期にわたる消費や内食需要の高まりに期待する向きもある。
要	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる12月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比103.4%の4,232千トンとなった。うち国内物は同106.6%の3,539千トンと前年を上回ったが、輸入物は同89.6%の0,693千トンと下回った。1-12月累計で、合計では同103.1%の55,190千トンと前年を上回っている。鶏肉加工品は1月以降も需要は堅調で増加傾向は変わらず、国産むね肉価格が比較的低位で安定していることで国産比率が高まっており、さらに国産物での製造量増加を期待したい。
3. 業務・加工筋	(1) 推計期末在庫は国産28.2千トン（前年比108.1%・前月差△0.4千トン）、輸入品133.6千トン（同100.2%・同△0.4千トン）と合計で161.8千トン（同101.5%・同△4.4千トン）となった。生産量が9.0千トン増加し、輸入量が3.9千トン減少した。国産品の出回りが生産量を若干上回ったため、国産品の在庫は微減したが、昨年比では在庫増となっている。輸入品は、出回りが約0.2千トン減少の48.9千トンだったため在庫が微減し、前年と同水準となった。
1. 令和元年12月	(1) 推計期末在庫は国産28.2千トン（前年比108.1%・前月差△0.4千トン）、輸入品133.6千トン（同100.2%・同△0.4千トン）と合計で161.8千トン（同101.5%・同△4.4千トン）となった。生産量が9.0千トン増加し、輸入量が3.9千トン減少した。国産品の出回りが生産量を若干上回ったため、国産品の在庫は微減したが、昨年比では在庫増となっている。輸入品は、出回りが約0.2千トン減少の48.9千トンだったため在庫が微減し、前年と同水準となった。
在	(1) 推計期末在庫は国産28.2千トン（前年比108.1%・前月差△0.4千トン）、輸入品133.6千トン（同100.2%・同△0.4千トン）と合計で161.8千トン（同101.5%・同△4.4千トン）となった。生産量が9.0千トン増加し、輸入量が3.9千トン減少した。国産品の出回りが生産量を若干上回ったため、国産品の在庫は微減したが、昨年比では在庫増となっている。輸入品は、出回りが約0.2千トン減少の48.9千トンだったため在庫が微減し、前年と同水準となった。
2. 見通し	(1) 独農畜産業振興機構の需給予測（2月26日公表）では、1月は国内生産量が前月比で約17.3千トン減少、輸入量は前月比で約1.1千トン減少、出回りは前月比で約27.2千トン減少するため期末在庫は約166.1千トンと前月より約4.3増加し、前年より約2.5%増加の見通しとなっている。
庫	(2) 2月は前月比で生産量は3.8千トン減少、輸入量もブラジル中心に2.5千トン増加、出回りは9.1千トン増加することから期末在庫は国産・輸入品合計で6.1千トン減少の160.0千トン（前年比100.7%）と予測されている。3月は生産量は9.8千トン増加するも、輸入量が1.7千トン減少し、出回りが1.7千トン減少するため、在庫は2.8千トン減少の157.2千トン（前年比103.2%）と前年を上回る予測となっている。
1. 2月動向	(1) 2月の平均相場は、もも肉597円/kg（前月比△25円）・むね肉253円/kg（同△9円）正肉合計で850円/kgと前月比で34円下回り、前年比でも56円下回った。もも肉は月初め605円で始まり、生産数量の伸びに対して需要が追いつかない状況は変わらず、かつ暖冬で鍋物需要の不振が拍車を掛け、月末相場574円と結果31円安となった。むね肉も、もも肉同様供給過剰状態にあり、量販店等の特売で一定需要があったものの、月初め262円・月末244円の18円安となった。
相	(1) 気象庁の1カ月予想では、3月の平均気温は全国的に高い確率60%としている。コロナウイルス対策で中小高校の休校およびテーマパークの休園等で需要の減退は避けられず、また行楽需要も期待薄で、出荷数量増の予測のなかでも肉は月平均570円の下と予測する。むね肉についても、加工筋からの引合いは堅調ではあるが下げ基調で月平均250円と予測する。
2. 3月見通	(1) 気象庁の1カ月予想では、3月の平均気温は全国的に高い確率60%としている。コロナウイルス対策で中小高校の休校およびテーマパークの休園等で需要の減退は避けられず、また行楽需要も期待薄で、出荷数量増の予測のなかでも肉は月平均570円の下と予測する。むね肉についても、加工筋からの引合いは堅調ではあるが下げ基調で月平均250円と予測する。
場	(1) 気象庁の1カ月予想では、3月の平均気温は全国的に高い確率60%としている。コロナウイルス対策で中小高校の休校およびテーマパークの休園等で需要の減退は避けられず、また行楽需要も期待薄で、出荷数量増の予測のなかでも肉は月平均570円の下と予測する。むね肉についても、加工筋からの引合いは堅調ではあるが下げ基調で月平均250円と予測する。

全農チキンフーズ(株)

単位:千羽、千トン、%

生産状況		単位:千羽、千トン、%							
	R2年1月推計実績		R2年2月計画		R2年3月計画		R2年4月計画		
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	
入雛羽数	64,897	100.2%	61,323	105.3%	61,423	99.9%	62,703	100.6%	
処理羽数	59,610	105.0%	59,521	107.0%	62,176	102.1%	61,632	102.8%	
処理重量	179.2	106.2%	176.6	107.3%	185.4	102.8%	183.3	101.8%	

輸入動向

単位:千トン、%

品名	雞肉			調製品			合計			比率	
履歷	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	雞肉	調製品
R元年10月	51.6	54.4	94.8	45.5	50.5	90.1	97.1	104.9	92.6	53.1	46.9
R元年11月	48.8	43.2	113.1	45.2	50.0	90.3	94.0	93.2	100.9	51.9	48.1
R元年12月	44.9	47.0	95.6	46.9	46.1	101.6	91.8	93.1	98.6	48.9	51.1
R2年1月	41.6	42.0	99.2	39.3	42.4	92.7	80.9	84.4	95.9	51.4	48.6
R2年累計	41.6	42.0	99.2	39.3	42.4	92.7	80.9	84.4	95.9	51.4	48.6

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞

単位:グラム、円、%

履歷	數量			金額		
	當年	前年	前年比	當年	前年	前年比
R元年10月	1,483	1,480	100.2	1,312	1,371	95.7
R元年11月	1,452	1,461	99.4	1,309	1,339	97.8
R元年12月	1,625	1,765	92.1	1,605	1,665	96.4
R元年平均	1,410	1,405	100.4	1,299	1,323	98.2

※参考資料:総務省統計局HF

単位:円

	もも肉	むね肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R元年9月	29.9	27.8	107.4	134.5	135.0	99.6	164.3	162.8	100.9
R元年10月	29.3	28.9	101.3	137.9	137.8	100.0	167.2	166.8	100.2
R元年11月	28.6	28.4	100.6	137.6	137.8	99.9	166.2	166.2	100.0
R元年12月	28.2	26.1	108.1	133.6	133.3	100.2	161.8	159.4	101.5

※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構

単位:円、%

品名	もも肉			むね肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R元年11月	570	588	96.9	262	274	95.6	832	862	96.5
R元年12月	606	618	98.1	266	279	95.3	872	897	97.2
R2年1月	622	648	96.0	262	271	96.7	884	919	96.2
R2年2月	597	650	91.8	253	256	98.8	850	906	93.8
R2年3月	(570)	628	90.8	(250)	238	105.0	(820)	866	94.7
R2年4月	(560)	601	93.2	(250)	232	107.8	(810)	833	97.2
R2年平均	610	649	94.0	258	264	97.7	868	913	95.1

※()は見通し

※1-2月平均